



地域安全マップ

岐阜県警察本部生活安全部
生活安全総務課

地域安全マップをつくろう

1 地域安全マップとは

地域安全マップは、事件や事故が起こるかもしれないと不安に感じる場所などの危険な場所や、事件事故から身を守ることでできる場所などの情報を地図に表示したものです。

言い換えれば地域社会を点検・診断し、犯罪に弱い場所を洗い出したものが地域安全マップなのです。

地域安全マップは、自分たちで調べ、確認し結果をまとめるという過程に意義があるものであり、一度作れば良いというものではありません。



2 地域安全マップの作成目的

事件や事故に遭う危険を回避し、犯罪にあう可能性を低くすることです。
具体的に挙げると

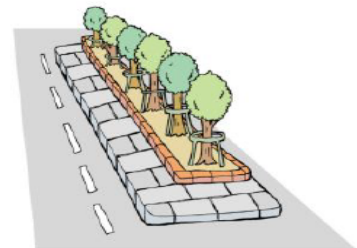
- ◎ 友達や友人、いろいろな仲間たちと一緒に、楽しみながら危険な場所や安全な場所を探して歩くことで、注意する場所を見つける目を養うことができます。
- ◎ 自分で危険な場所や安全な場所を見つけることで、他の場所に行っても危険を見つけることができる応用力を身につけることができます。
【危険予測能力の向上】
- ◎ 地域安全マップを作製し、活用することによって、地域の危険な場所と安全な場所を把握することができ、前もって危険を回避することができます。【危険回避能力の向上】
- ◎ 友達同士で話し合いながら作業を進めることで、コミュニケーション能力が伸び、また、危険箇所のインタビューなどで大人から話を聞くことで、世代間コミュニケーション能力も伸びます。【コミュニケーション能力の向上】

3 地域安全マップ作成

(1) 地域安全マップを作製する地域選定

学校までの地図（通学路の地図）、学校の周りの地図（学区域の地図）商店街の地図など、どの地域のマップを作製するかを決める。

地域安全マップは、学区内全てを網羅する必要はなく、地域を限って作製することが必要です。範囲を広くすると調査対象や調査項目が増え、作成段階でまとめにくくなります。





- (2) 地域安全マップに載せる情報の決定
 どんなマップにするか、どんな情報を載せるかを決める。

[載せる情報の例]

- 事件や事故が起きそうなところ
 - ・過去に事件や事故が起きた場所と似ているところ
- 入りやすい場所、見えにくい場所
 - ・高く、長い塀が続く道
 - ・路上駐車が多い道
 - ・落書きやゴミが散乱しているところ
 - ・整理されていない駐輪場
 - ・ぼろぼろになった空き屋
 - ・街灯が少なく暗い道
 - ・雑草や木が生い茂って見通しの悪い公園
 - ・若者がたむろする場所

など

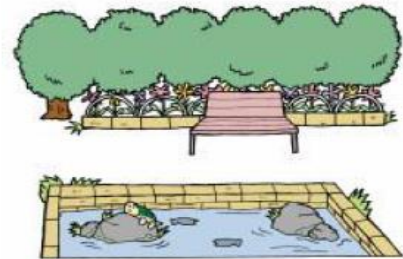
- 「ビックリ」「ヒヤリ」としたところ
- 何かあったら助けを求められることができるところ、
 - ・警察署、交番
 - ・子ども110番の家
 - ・学校、塾
 - ・信用できるお店（コンビニ、銀行、ガソリンスタンドなど）

(3) 準備しておくもの

- ① 地域安全マップ作製に使う物
- ・模造紙サイズ程度の用紙（地図を書く）
 - ・はさみ
 - ・付箋（コメントが記載できる大きめのもの）
 - ・セロハンテープ、糊
 - ・マジック、鉛筆、消しゴム、修正液
 - ・新聞紙

など

- ② 調査に使う物
- ・腕章など（調査をしていると分かるよう）
 - ・カメラ
 - ・実施する場所の地図
 - ・クリップボードなど
 - ・筆記用具
 - ・記録用紙



など

(4) 班編制

班を編制し、役割分担を決定します。

〈例〉

- 班長 ～ 1名
班の代表者であるとともに、班員の行動をまとめる役割を担当します。
- 副班長 ～ 1名
班長を補佐するとともに、班員の作業を取りまとめる役割を担当します。
- 地図係 ～ 1、2名
危険な場所及び安全な場所並びに写真撮影した場所及びインタビューした場所を地図に記載する作業を担当します。
- 写真係 ～ 1名
危険な場所や安全な場所を撮影する作業を担当します。
- インタビュー係 ～ 1、2名
地域住民に対して、被害に遭うかもしれないという不安を覚える場所と理由を尋ね、その回答内容を記録する作業を担当します。



(5) まちでの調査

調査項目が決まったら、まちに出て、実際に調査しよう。

[ポイント]

- 実際に歩いてみる
- 気になるところはどンドンメモしていき、後で「なぜ気になったのか」を考えてみるとよい。
- お店の人や警察官、散歩している人など、地域のいろいろな人の話を聞いてみて、その話も参考にする。

[注意すること]

- * 夢中になり過ぎて事件や事故に遭わないように気をつける。
- * 地域の人に話を聞くときは、都合を聞いたり挨拶をきちんとするなど礼儀正しくする。
- * 人には聞かれないこともあるので、絶対に無理強いはしない。また、聞いた話をおもしろおかしく話さないこと。



(6) まとめ

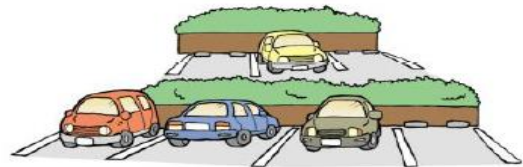
下書きの地図やメモを見て、そのときの様子を思い出しながら、地域安全マップを完成させる。

[ポイント]

- ・「集めた情報をどのように表現したらマップを見る人にわかりやすいか、後で使いやすいか」を考えてマップを作製する。
- ・絵や記号、色などを使うと分かりやすくなる。
- ・自分たちのまちのことを思って作製する。

《注意事項》

- 地域安全マップは、注意を要する場所を表示した地図であって、犯罪が起きた場所を表示した地図ではないことに注意してください。
(犯罪が起きた場所を単純にそのまま地図に書き込むだけでは、危険な場所を見極める能力は育ちません。)
- 犯罪の発生にこだわり、被害体験の聞き出しなどは絶対に行わないでください。
(被害者の心の傷を広げる危険性もあります。)
- 写真の個人情報情報は消してください。
(まちで撮影した写真に家の表札や車のナンバーが写っていた場合は、その部分を黒マジックなどで消してください。)



4 発表

地域安全マップが完成したら、調査結果、作製課程において苦労した点や反省点等について発表しましょう。

